



藤のかげはし

F.I.A NEWS

ふじおか し こくさい こうりゅうきょうかい かいほう
藤岡市国際交流協会会報

Fujioka International Association

March 2023

2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックにより、たくさんの方が多文化共生社会や国際交流を身近に感じ、豊かな社会の形成に意識を向けたことと思います。また、引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るっており、ロシアによるウクライナ侵攻が起こるなど、国際社会にかかわるニュースをたくさん耳にします。

このような情勢の中、藤岡市国際交流協会では、2022年度もいくつかの事業を中止としましたが、平和で穏やかな生活が戻り、多くの人と交流できることを心から願っています。

今年度実施した主な事業

ウクライナへ寄附をしました

皆さまからの募金、藤岡商工祭の外国物産即売会での売上等から駐日ウクライナ大使館へ10万円を寄附しました。

ご協力いただきありがとうございました。



いっしょ かつどう 一緒に活動をしたり、国際交流協会を応援したりしてくれる会員を募集しています。「外国人の日本語学習を支援したい」「いろいろな人と交流したい」など、多文化共生社会に関心のある個人や企業・団体の方はぜひご協力ください。

ねんかい ひ 年会費 個人会員2,000円 法人・団体会員10,000円

藤岡市国際交流協会事務局(藤岡市役所地域づくり課内)

〒375-8601 群馬県藤岡市中栗須327

TEL:0274-40-2428(直通) FAX:0274-24-3252

URL=https://www.city.fujioka.gunma.jp/soshiki/kikakubu/chiikizukuri/5/1/index.html

E-mail: fia@city.fujioka.gunma.jp

発行日: 2023年3月24日

発行者: 藤岡市国際交流協会

編集: 藤岡市国際交流協会総務部

✓ 国際交流啓発作品コンクール

市内の小中学生から応募されたポスター、写真、標語の計157点から金賞13点、銀賞56点が選ばれ、10月12日(水)～16日(日)の5日間、ららん藤岡花の交流館にて展示しました。
また、入賞者のポスターは、各地区の公民館でも展示しました。



ぶんかこうりゅうぶかい
文化交流部会

✓ 外国語講座

多くの人に外国語の学習を通して国際交流に対する理解を深めていただくため、ALT等を講師にお迎えして開催しています。本年度は人気の韓国語講座、英会話教室の他、親子英会話教室を実施しました。



韓国語講座



英会話教室



親子英会話教室

✓ 外国料理教室

12月10日(土)にフィリピン料理教室を開催しました。フィリピン出身のALTビビアン・カステロさんから牛肉をトマトで煮込んだ「ビーフカルデラ」、バナナの春巻き「バナナトウロン」の家庭料理2品を教えてくださいました。

参加者の一言

フィリピン料理を食べるのは初めてでしたが、とても美味しかったです。
作り方が日本とは違って驚きました。



✓ **外国物産即売会**

10月30日(日)の藤岡商工祭にて、中国江陰市を訪れた際に購入した中国物産や、カナダリジャイナ市の公式グッズなどを販売しました。日本にはないキーホルダーやスカーフなどを提供し、子どもからお年寄りまでたくさんの方々から好評をいただきました。また、売上げは全額、ウクライナ支援のために寄附をさせていただきました。



ぶ かい
ボランティア部会

✓ **外国人のための日本語教室**

「言葉の壁」により、日本での生活に不自由している外国人を対象に、月3回金曜日の夜に日本語教室を総合学習センターで開講しています。学習は個別に行っており、講師のスタッフが受講生の進捗や興味を考慮して丁寧に指導を行っています。



✓ **日本文化研修**

5月29日(日)に日本文化研修バス旅行で埼玉県の丸木美術館と小江戸・川越へ行き、日本の文化に触れる機会を作り、交流を深めました。

参加者の一言

バス旅行で川越に行けて楽しかったです。
丸木美術館で原爆の絵を見て戦争は怖いと思いました。



✓ **「日本語教室」ボランティアスタッフ募集☆**

外国人やその家族の日本語学習を手伝ってくれるスタッフを募集しています。特別な資格や経験はいりません。外国語が話せなくても大丈夫ですので、気軽に参加してください。日本語の日常会話を通じて、身近な国際交流を始めてみましょう。また、日本語教室の受講者も随時募集しています。



私のグローバル体験記

伊藤 このみ

私が海外で生活するきっかけとなったのは小学生の頃で、藤岡市の国際交流の一環でカナダからの学生をホストファミリーとして受け入れた時でした。その当時は自己紹介をするのがやっとで、コミュニケーションをとるのが大変でしたが幼い私にとっては刺激的で、海外はどんな世界が広がっているんだろうと、とてもワクワクしたことを覚えています。大学卒業後、看護師として働き始めてからも、いつか海外に行ってみたい、その土地で暮らしてみたいという思いは持ち続けていました。そんな中、ワーキングホリデービザというものがある事を知り、すぐ決断しました。

初めはホームステイをし、その後シェアハウスを探し韓国、香港、フランスなど多国籍なメンバーとの生活が始まりました。お互い母国料理をつくってパーティーをしたり恋愛話や、文化の違いについてなど、毎日のように語り合いました。また、ビザを得るために現地の農園でブルーベリー摘みの仕事をしていました。辛い肉体労働の中で1番驚いたのは、トンガ人の同僚がスピーカー持参で踊りながら仕事をしていました。辛い仕事が嘘のように明るくなりました。車を安く譲ってもらい、友人とシドニーからタスマニアまで約1000キロのロードトリップをしたこともありました。大自然の美しい景色に触れながら、冒険者になったような気分でした。夕暮れ時の海は本当に美しかったです。アジア旅行をした際には、オーストラリアで出逢った友人に母国を案内してもらい、より深くその国の事を知る事ができました。

現在は看護師として働きながら、夫の苺農園を手伝っておりますが、どんなシチュエーションでも海外の方と接する機会があるので、海外生活の経験は活かせます。

私は思い立ったら、即行動します。看護師として働いていると、健康的な理由から行動したくても出来ない人々と接します。今ある時間を後悔のないよう、行動したいと強く思うのです。

今、海外に行ってみたくて、特に明確な目標がないという人も、ぜひ行ってください。自分の目で見て、肌で感じるという経験は大きいです。そして、それは貴方の人生にとってとても大切なものになりますよ。



ロードトリップ中(タスマニアにて)



ファームで仲良くなった友人